



# なまますて

※「なまますて」とは……インドのあいさつで「おはよう」や「こんにちは」の意味で使われます。我々の称える「南無」の語源とも言われています。

## 『コロナ禍に思う』

「来年のお盆こそは帰省してお参りしたいです！」

昨年のお盆の時そう言われた方が沢山おられました。まさか今年もこんな状況になるとはだれが想像したでしょうか。ワクチン接種さえ終わればみな解決！と多くの人が期待していたのですが……

このコロナ禍で色々な生活様式が変わって来ました。三蜜を避けるため、いろんな行事やイベントが中止に追い込まれ、冠婚葬祭も縮小を余儀なくされています。葬儀も「家族葬」が主流となってしまいました。

家族で静かに送る、ということも悪いことではないのかもしれませんが、親しい方々に落ち着いて偲んでいただけない、お世話になった人とゆっくりお別れが出来ない……そんな声もよく聞かれます。

人生の最後である「死」は、厳粛なものであってほしいのです。命がかけがいのないものであればあるほど悲しいものです。その悲しみを共有し、その人生を偲び、お互いに感謝の気持ちを伝えあう葬儀の意義は大切なものだと思います。「葬儀」が軽んじられるということは

「いのち」が軽んじられることに繋がるような気がします。いずれにせよ、「以前とは違った日常」に変わっていかざるを得ないと思うのですが、

「いのちの尊厳」を確認する葬儀という場を大切にしていたいただきたいと思えます。

## 豊沢光林寺公園清掃のご報告

毎年、皆様にご協力をお願いして行っております

「豊沢光林寺公園清掃奉仕」を去る七月三日(土)に行いました。

例年であれば二十〜三十人程度の人数で行って

参りましたが、今年は感染拡大防止の観点から

十人以下の少人数にて決行致しました。

ご協力いただきました南寺林地区の八名の有志の皆様には心より御礼申し上げます。



光林寺寺報 第二十三号  
令和三年八月九日 発行  
発行所 時宗 林長山 光林寺



# ☆お墓まいりの際の注意事項について

近年、お墓まいりの際にお供え物等の放置や不法投棄、無分別等、一部の参拝者のマナー違反が目につくようになってまいりました。

ご自身のご先祖様への感謝の気持ちと同様に他の参拝者の皆様への心遣いもよろしくお願い致します。

◎可燃・不燃にかかわらず、御供物などは、すべてお持ち帰り下さい。

◎生花や雑草は持ち帰りいただくか、分別の上、墓地西端の草捨て場へお持ち下さい。

## ◎書籍紹介

○三上れい子著「88歳のジーンズ。」



盛岡のリフォーマー三上れい子氏より、新著「88歳のジーンズ。」をいただいた。若いころより婦人服のデザインをされ、その後衣資源の再生やリメイクの啓蒙活動を続けて来られた方である。今叫ばれているSDGsの先駆けともいえる御年88歳の現役バリバリである。本文中で当寺に関わる部分もあるので紹介したい。

『花巻市の名刹、時宗の光林寺のK子さんが、あるとき、お上人になられたお父様の古い黒の僧衣を持ってこられた。「これで何か着られるものを作ってもらいたい」というのだ。その衣の裾を拝見してひれ伏した。正絹の裾、その裾にはあちこちに繕いの跡が見られた。穴のところには、似よりの布を張り丁寧に補修されていた。1968年、お上人は障害者の施設を立ち上げルンビニー学園として発足させ、営々としてその人々を包み込んでこられた方だ。そのご労苦を存じ上げているがゆえの、この黒い僧衣を大変尊いものとして受け止めたのだった。・・・略・・・』

昨今、お葬式などでお寺に参って驚くことに、和尚さん方の僧衣のご立派なこと。金ぴか、朱ぴか、まるで僧衣のファッションショー。修行を積まれた老僧ならうなずけるが、学業を終えたばかりの和尚さんにはふさわしいとは思えない。糞掃衣(ふんぞうえ)の精神をかみしめるたびに、このような風潮はいずこから来ているのか？と首を傾げてしまう。』

大変耳の痛いお言葉である。私も若いころは抵抗を感じて、黒衣に茶の如法衣しか使わなかったが、いつのまにか立派なお袈裟を身につけている。いつも心しておかなければいけないことである。

とても素敵で楽しく読みやすい本です。お勧めです。  
盛岡のリヴァープレス社発行 1500円+税  
当寺でも扱う予定です。お問合せ下さい。

